

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス おひさまぶらす		
○保護者評価実施期間	令和 6 年 11月 26日		～ 令和 6 年 12 月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	令和 6 年 11月 26日		～ 令和 6 年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 1 月 27 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童、保護者、地域に向けて開放的なところ</li> <li>教室、遊戯室、園庭、浴室、プールなど施設が充実している</li> <li>地域の様々な学校の児童の交流ができる</li> <li>敷地内に放デイ、入所、相談支援事業所があり情報共有や行事の実施がし易い</li> <li>入所部の日中一時や短期入所との併用利用ができる</li> <li>地域の徒歩圏内で買い物学習や交通安全学習が体験できる</li> <li>公用車が多数ある事や職員数が多いことから外出プログラムに取り組める</li> <li>厨房があり、給食や調理プログラムの提供ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊んでいる場面で安全に使うよう声掛けなど行っている。</li> <li>施設の開放をしていることを子ども部会や担当者会議などで知らせている。</li> <li>将来に向けて徒歩圏内で出来る体験プログラムから外出へと範囲を広げて実施している。</li> <li>拠点内の施設も社会資源としてプログラムに活用できるよう協力体制を取っている。</li> <li>定期的なミーティングを開いて拠点内の事業所が情報共有しやすい雰囲気作りをしている。</li> <li>児童の自立通所を勧めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他事業所との交流</li> <li>公共交通機関の利用など体験プログラムの範囲を広げる</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は、定期的に会議を開いて学習会が開ける</li> <li>児発管研修を始め、福祉業務に関する外部研修に参加できる</li> <li>定期的に専門職の実践研修が受けられる</li> <li>ガイドラインに沿って個別支援計画書を作成している</li> <li>拠点の立地や強みを生かしたプログラムが提供できる</li> <li>児発や別の放デイとの連携が取れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の経験年数や資格などに応じて研修を取り入れるようにしている</li> <li>定期的にガイドラインの読み合わせなどをして制度理解に務めている</li> <li>異なる事業同志の連携が取りやすいように朝礼、リーダー会議など顔を合わせて話ができる機会を持っている</li> <li>「意思決定支援」について朝礼で発表している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所の研修の方針を説明する機会を作る</li> <li>職員のキャリア形成に応じた研修が受けられるように取り組む</li> <li>制度について学べる機会を設ける</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人内の保育園、幼稚園、学童の職員と児童部研修が出来る</li> <li>法人内で併用利用している児童の情報共有ができる</li> <li>菊池圏域子ども部会、大津支部会を通して圏内や町内の療育事業所と気軽に情報交換できる</li> <li>事故等の発生時に保護者にLINEやHUGシステム、電話を使って速やかに連絡が出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人内の各研修担当者と研修テーマや日程について調整をして参加しやすい様になっている。</li> <li>事故発生時はマニュアルに沿って速やかに保護者に連絡を入れる</li> <li>HUGシステムの使い勝手など保護者が気軽に尋ねられるようにしている。事業所説明会では質問コーナーを設けている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所説明会でマニュアルの説明をする</li> <li>HUGシステムの使い方に詳しくなるよう「ヘルプ」機能を活用する</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度理解が職員によって異なる</li> <li>「療育」の理解が職員間でズレがある</li> <li>経験値、年齢、知識の違いからコミュニケーションの難しさが見られる</li> <li>スキルアップの機会が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エビデンスに基づいた「療育」の共有ができていない</li> <li>「療育」に関する専門研修が少ない</li> <li>経験や職種に応じた療育のスキルアップできる機会が少ない</li> <li>組織的な連携に時間を費やすことで「療育」に集中して取り組むことが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な学習会を開く</li> <li>短時間の研修等を取り入れてチームで効率よく学ぶ機会を作る(eラーニング等)</li> <li>GSV(グループスーパービジョン)の導入</li> <li>会議のスケジュールを分かり易くする</li> <li>効率よい会議の進め方を統一する</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域に向けて発信が弱い</li> <li>マニュアルは存在していても保護者や職員に周知されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域が必要としている情報をつかむ機会が少ない</li> <li>効果的な発信の仕方を知る機会が少ない</li> <li>マニュアルについて知る機会が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームで発信力をあげる工夫をする</li> <li>事業所説明会でマニュアルの説明等、効果的な周知の場を検討する</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点に複数の事業があるが、会議等に時間がかかっている</li> <li>療育準備、個別支援会議、プログラム作成、個別課題準備などに時間が足りない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議が多い</li> <li>会議の連続性が分かりにくい</li> <li>療育準備等のルーティンが統一されていない為個人任せによるところがある</li> <li>プログラム作成に連続性があると良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点内で会議のスケジュール、内容、所要時間等の見直しが必要</li> <li>会議の年間計画があると見通しが立つ</li> <li>療育準備等のルーティンの見直しをチームで出来ると良い</li> <li>プログラムの年間計画をチームで共有できると良い</li> </ul>